

# 超早期発見 NHC式 がん予防

Ultra-early detection, NHC Cancer Prevention Medicine

がん腫瘍化前検査

がん腫瘍化前治療



## ナチュラルハーモニークリニック表参道

所在地 〒150-0001  
東京都渋谷区神宮前 6-25-14  
神宮前メディアスクエアビル5F

診療時間 10:00~19:00 完全予約制

休診日 日曜日

URL <http://natucli.com/>

ご予約 0800-800-4977

\*当クリニックの治療は、自由診療となります。



## 教育・研修用資料

この冊子は、当クリニックの再生医療等の教育・研修用資料です。



# Prevention of Cancer

現代の日本において、2人に1人はがんになるといわれています。がんはそれほど身近な病気であり、将来のがんリスクを下げるために、運動や食事、喫煙などの生活習慣を見直して予防に取り組むことが推奨されています。

私たちナチュラルハーモニークリニック表参道は、将来のがんリスクを知り、備えることのできる最新の療法を提供しています。それは、がんになる前段階でリスクと治療方針を知ることができる精密検査と、将来的ながんリスク抑制を目指す免疫細胞療法と遺伝子療法、がん先端医療を組み合わせたトータルな予防治療です。

科学の進化と環境の変化により、将来先進国の平均寿命が100年になると予測される時代。がんの超早期発見や予防療法が、より長い健康寿命への一助となるよう願っています。



当クリニックは承認された再生医療等提供計画を厚生労働省に提出し、第二種・第三種において計画番号を取得した医療機関です。安全で自然な効果が期待できる「再生医療」に取り組んでいます。

## 超早期発見 NHC式 がん予防 〈コンテンツ〉

### ● 序章 なぜ、がんは発生するのか がん発生のしくみと統計 3

### ● 第1章 がん腫瘍化前検査

がんを発見するための一般的な検査例 6

循環がん細胞検査(CTC)・循環がん幹細胞検査(CSC) 7

免疫年齢検査 10

### ● 第2章 がん腫瘍化前治療

ヒト自己活性化NK細胞によるがん免疫細胞療法 13

遺伝子治療 15

がん先端医療 18

### ● 第3章 よくあるご質問

がん腫瘍化前検査編 19

がん腫瘍化前治療編 20

### ● 第4章 NHC式 再生医療のご案内

自己脂肪由来間葉系幹細胞による点滴療法 22



# なぜ、がんは発生するのか がん発生のしくみと統計

人間の身体はおよそ60兆個もの細胞からできており、絶えず細胞分裂をくり返しています。全ての細胞内の核には遺伝子が存在しており、細胞分裂の際に何らかのきっかけで遺伝子に変化が起こることがあります。この変化した遺伝子を持つ細胞にさまざまな要因が作用して、さらなる変化が積み重なり、やがてがん細胞に変化します。

### がんが発生するメカニズム

がん細胞は、正常な細胞の遺伝子に傷がつくことで発生します。これらの遺伝子の傷は、長い期間をかけて徐々に誘発されます。異常が起こった細胞が増殖し、さらに異常が起こることで、より早く増殖するようになります。この異常の積み重ねによりがん細胞が完成すると考えられています。

正常な組織  
↓  
1つ目の異常をもつ細胞の増殖  
↓  
複数の異常をもつ細胞のさらなる増殖  
↓  
悪性度の高い細胞ができて周囲へ広がる

参考:国立がん研究センターがん情報サービス

### 日本におけるがんの要因

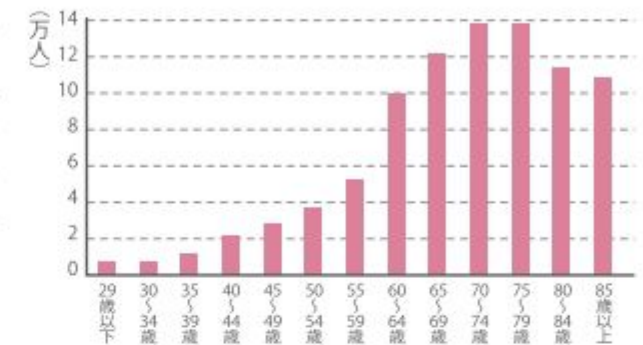
遺伝子の変化が起こりやすくなる主な要因に、たばこやアスベストなどの発がん性物質、ウイルスや細菌への感染、飲酒、紫外線や放射線を受ける環境などが挙げられます。

性別	要因	割合
男性	喫煙	29.7%
	受動喫煙	0.2%
	感染	22.8%
	飲酒	9%
	塩分摂取	1.9%
	過体重・肥満	0.8%
	野菜摂取不足	0.7%
	果物摂取不足	0.7%
	運動不足	0.3%
	ホルモン剤使用	0.3%
女性	感染	17.5%
	喫煙	5%
	受動喫煙	1.2%
	飲酒	2.5%
	過体重・肥満	1.6%
	塩分摂取	1.2%
	果物摂取不足	0.8%
	運動不足	0.6%
	野菜摂取不足	0.4%
	ホルモン剤使用	0.4%

Source: Inoue, M. et al. Ann Oncol 2012; 23(5): 1362-9より作成

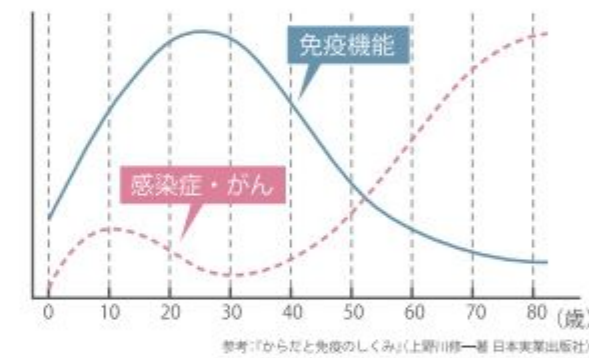
## がんの発生率と年齢

がんは年齢を重ねるにつれて発生率が高くなる傾向にあります。遺伝子の異常が年齢とともに蓄積する傾向にあること、また腫瘍が一般的ながん検査で発見される大きさになるまで数年~10年以上かかることが主な要因と考えられています。



## 免疫機能の低下とがんの関係

さらには、免疫機能が加齢やストレス、不適切な生活習慣などにより低下するにつれて、感染症やがんの発症率が高まることわかっています。そのため、免疫機能が低下する50歳ぐらいから、男女ともにがんにかかる人が増加しています。



がんになる前から免疫力を高めて維持することが  
がん予防の第一歩だと、私たちは考えます

## 日本人の2人に1人が、がん罹患する時代

2010年の厚生労働省のレポートで、日本人の3人に1人ががんで死亡すると統計が出ました。以来医学の進歩により、2016年にがんで死亡した人は、男性で4人に1人、女性で6人に1人と生存率が上がってきています。今後、腫瘍化前の発見や遺伝子治療、再生医療などの取り組みにより、ますます死亡率が下がることが期待されています。

### ■ がん罹患する確率

生涯がん罹患リスク		何人に1人か	
男性	女性	男性	女性
62%	47%	2人	2人

国立がん研究センターがん情報サービス～累積罹患リスク(2014年データに基づく)より

### ■ がんで死亡する確率

生涯がん死亡リスク		何人に1人か	
男性	女性	男性	女性
25%	16%	4人	6人

国立がん研究センターがん情報サービス～累積死亡リスク(2016年データに基づく)より



がんになる前に罹患リスクを知ることができる

# NHC式 がん腫瘍化前検査

循環がん細胞検査 (CTC)

循環がん幹細胞検査 (CSC)

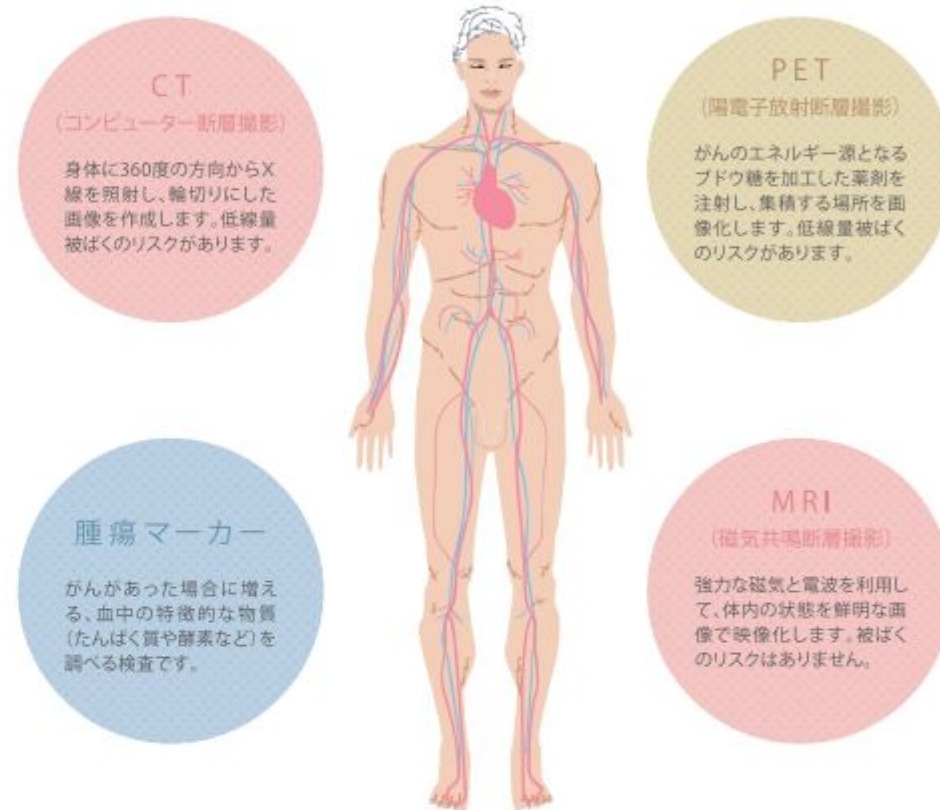
免疫年齢検査

ナチュラルハーモニークリニック表参道は、病気にならないための予防医療に取り組んでいます。

この「がん腫瘍化前検査」では、健康体の方を対象とした“超早期のがんの発見・がんになる可能性”を知ることのできる検査です。最新の検査を複数組み合わせ、多角的にがん罹患リスクを検知します。がんの既往歴のある血縁者がいらっしゃる方や、将来的ながん罹患リスクを知りたい方などは、いち早く予防や治療に取り組むことができます。

## がんを発見するための一般的な検査例

日本で一般的に行われているがん検診では、早期発見・早期治療によるがんの死亡率低下を目指した、有効性の高い検査が採用されています。しかし、これらの検査でもがんの場所や性質によっては見つけれないケースもあります。



### 一般的ながん検査のデメリット

上に挙げた検査は、科学的に有効性が証明されていますが、がんの発見率は100%には至っていません。がんの種類にもよりますが、腫瘍がある程度の大きさ(1~2cm程度)になるまでは、検査で発見することが難しいとされています。

- 身体に負担がかかる検査がある
- がんの種類によってそれぞれの検査に向き・不向きがある
- ある程度の見逃しがある
- 超早期がんの発見は極めて難しい

腫瘍がある程度の大きさにならないとがんは発見されない・  
将来的ながん罹患リスクを知ることは難しい



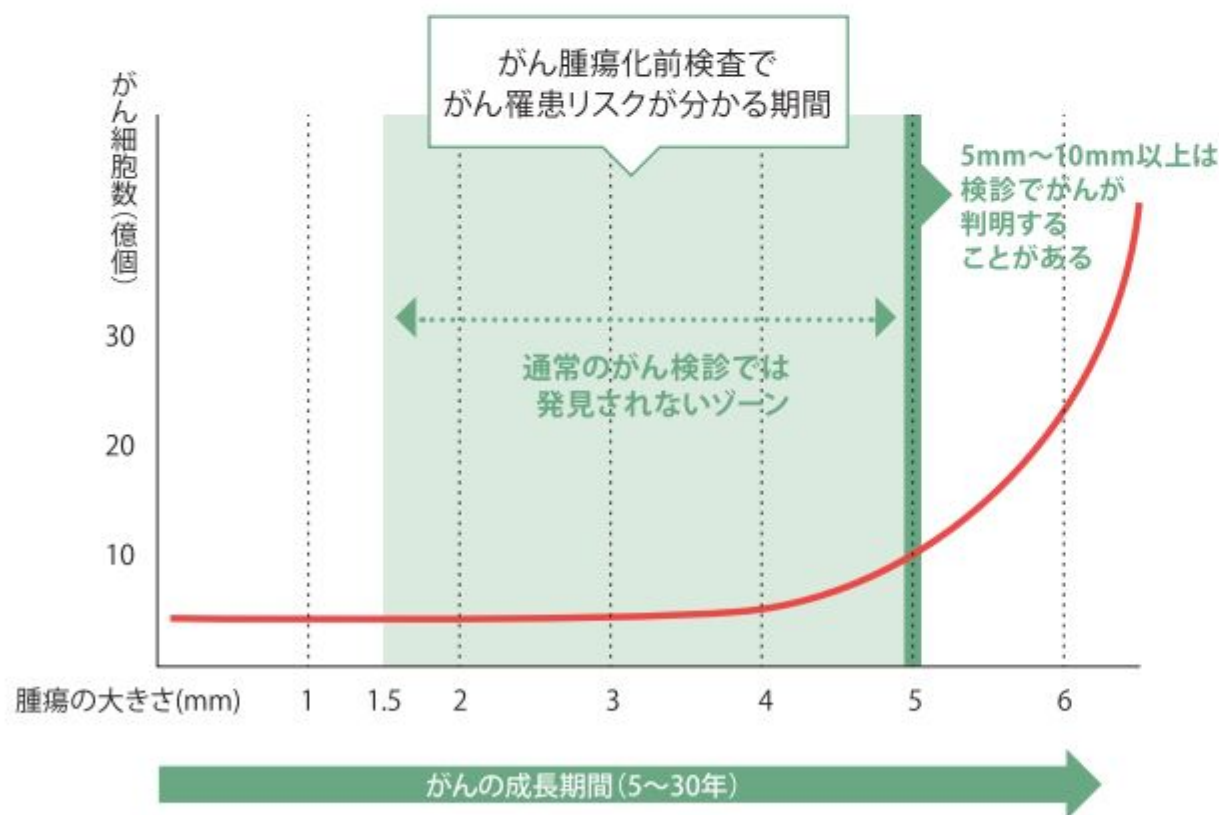
## がん腫瘍化前検査—Part 1

# 循環がん細胞検査 (CTC) 循環がん幹細胞検査 (CSC)

がんが腫瘍化する以前に、がん罹患リスクを知ることができる多角的な検査です。血中のがんが分泌する微量な物質や、ご自身の免疫年齢から、総合的にリスクを診断。一般的ながん検査に比べて発見率が高く、ごく初期のがんも見つけられます。

### がん罹患リスクを未然に知ることのメリット

がん細胞が腫瘍化するケースでは、微小なサイズのがん細胞が発生して、15~30年程度かけて成長していきます。腫瘍が5mm~10mm以上の大きさになると、PETやCTなどの画像検査で発見されることがあり、一般的にはその時点から治療がスタートします。腫瘍発見時に体内にあるがん細胞は10~50億個といわれ、この時点での増殖スピードは、それまでに比べて急激に速くなっていきます。このため、腫瘍化してがんが検診で発見される前に罹患リスクを知ることが、超早期治療に非常に役立ちます。



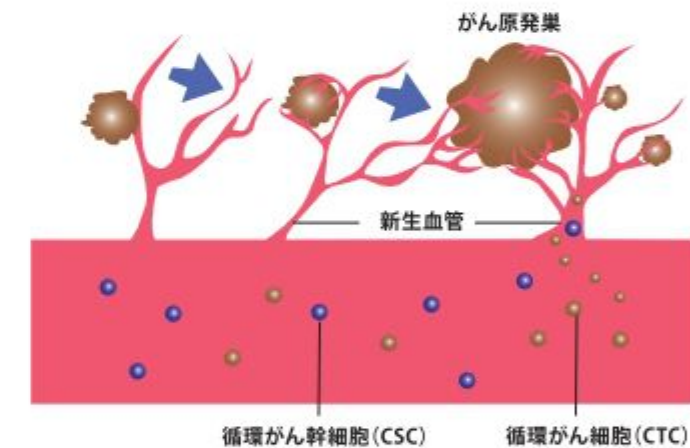
### 超早期のがん罹患リスクを血液検査で判定

がん腫瘍化前検査は、「循環がん細胞検査(CTC)」「循環がん幹細胞検査(CSC)」を組み合わせ、多角的に身体の状態を調べる検査です。いずれも身体に負担の少ない血液検査のみで行うため、検査時の薬品投与やX線による被ばくのリスクがありません。現在の疾患リスクから、一般的な検査では発見の難しい小さながんまで、高い精度で判別。健康な状態で、がん細胞の有無あるいは早期発見を行うため、いち早く健康増進や治療に取り組むことができます。



### 循環がん細胞(CTC)、循環がん幹細胞(CSC)とは?

がん細胞の大きさが1.5mm程度になると、栄養や酸素を求めて血管内へ浸潤し、血液中を巡ります。これが、循環がん細胞(CTC)です。さらにがんの原発巣は血管から新生血管をつくりだし、大量の栄養や酸素を消費しながら循環がん幹細胞(CSC)を放出し、転移をくり返します。このCTCとCSCが血液中にどのくらい存在するのかを調べます。



#### (1) CTC検査 **オンコトレース R.G.C.C**

1.5mm以上の微小がん細胞を検出

血液中の循環がん細胞(CTC)と循環がん幹細胞(CSC)の数を測定し検査を行うことにより、画像検査では見つけることのできない1.5mm以上の超早期のがんを判定できます。

検査で判明すること

- |           |           |
|-----------|-----------|
| がん幹細胞の有無  | がん幹細胞の濃度  |
| がん原発巣マーカー | がん幹細胞性の発現 |



## (2) CTC総合検査 **オンコノミックス プラス**

がんを作る幹細胞に有効な抗がん剤と天然成分などを判別

この検査では血液中に潜む循環がん幹細胞(CSC)を採取し、各々に合った抗がん剤や天然成分などを分析します。自分の体内にあるがんのメカニズムと、有効な治療方法を知ることができます。

### 検査で判明すること

<b>抗がん剤感受性</b>
一般的に治療で使用されている約50種類の抗がん剤のなかで合うものを報告します。
<b>分子標的剤感受性</b>
がん細胞の増殖や転移を阻害する44種類の分子標的剤のなかで合うものを報告します。
<b>天然成分感受性</b>
日本、アメリカ、ドイツなどのさまざまな国の多くの天然成分のなかで合うものを判定します。
<b>がん遺伝子解析</b>
がん細胞の特徴や、進行状態も把握できます。

がん幹細胞の濃度	がん原発巣マーカー
がん幹細胞性の発現	がん遺伝子発現
抗がん剤感受性	分子標的剤感受性
天然成分がん感受性	サリドマイド

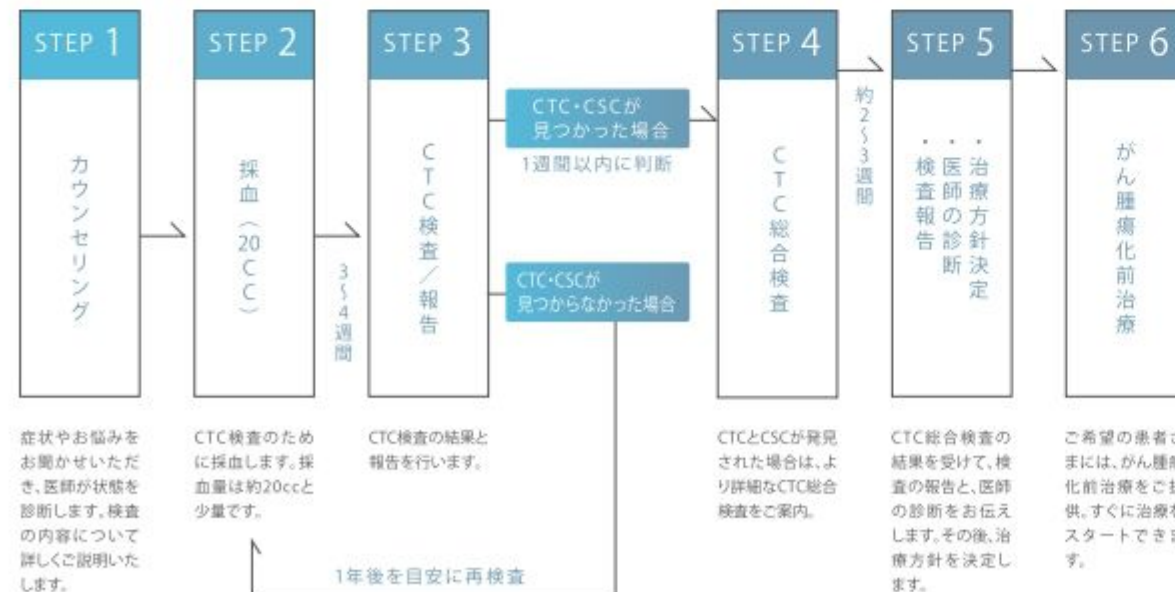
※オプションで「免疫チェックポイント阻害剤(オプジーボ、ヤーボイ等)」検査も行っています。

## (3) フォローアップ検査

治療後に行うフォローアップ検査

「がん腫瘍化前治療」(P.12~)を受けた方の治療後検査です。血液中の循環がん細胞(CTC)と循環がん幹細胞(CSC)の数を再び測定します。CTC・CSCの数が減少していない、もしくは増加している場合は、治療法の見直しの判断となります。

## 検査の流れ



## がん腫瘍化前検査—Part 2 免疫年齢検査

免疫年齢とは血管年齢、脳年齢などと同じように、体内の免疫力をあらわす指標のひとつです。血液に存在する加齢状態を反映する、上位5遺伝子の発現量を測定して算出します。

- がんや感染症などに対抗する免疫力を判定
- 遺伝子の特徴から、免疫力改善のアイデアを資料として提供
- 定期的に受けることで、病気の予兆を判定できる

## 免疫年齢検査 報告書例





## がんの超早期発見の5つのメリット

がんの診断で大切なことは「いかに早く見つけるか」ということです。  
腫瘍化前のがんを発見することには、以下のようなメリットがあります。

### ① 十分な治療期間の確保

超早期にがんが発見できるため、腫瘍化の進行を予防する治療が十分に受けられます。さらに、一般的な検査では早期発見が難しい種類のがんも超早期に発見できるため、「発見されたときには手遅れ」といった事態を回避できる確率が高まります。

### ② より副作用の少ない治療が選択可能

腫瘍化したがんの治療には、手術・薬物（抗がん剤）療法・放射線治療があり、いずれも身体に大きな負担がかかります。腫瘍化前のがんを発見できると、天然成分を使った治療や免疫療法、がん先端医療などの身体に優しい治療も選択できるため、治療の幅が広がります。

### ③ 治癒率の向上

まだ、がん細胞が少ない腫瘍化前のがんを発見できるため、副作用の少ない治療はもちろん、保険適用の標準治療による選択肢も広がり、身体への影響も抑えられます。腫瘍化後と比べて治癒率の向上も期待できます。

### ④ 今までの生活の維持

近年では、より負担の少ないがん治療が行われるようになってきましたが、通院や薬の副作用、治療の後遺症などで、仕事や生活にある程度の影響がでることは避けられません。がんの超早期発見は、こうしたQOLの低下も防ぎます。

### ⑤ 金銭的なリスクの低減

がん罹患後には、どうしても治療を優先せざるをえないため、医療費の増加や休業に伴う収入減などの経済的な影響があらわれます。超早期にがんを発見することで、こういった金銭的なリスク回避が期待できます。

罹患リスク判明後のがんになる可能性を下げる

# NHC式 がん腫瘍化前治療

ヒト自己活性化NK細胞による  
がん免疫細胞療法

遺伝子治療

がん先端医療

がんは誰でも罹患する可能性のある病気で、そのうちの5%は遺伝子などの先天的な要因によるもの、残りの95%は生活習慣や環境などの後天的な要因によるものといわれています。

「がん腫瘍化前治療」は、がんの発症前に行う積極的な予防治療です。ご自身の免疫細胞を増殖・活性化した後に体内に戻して免疫力を高める「ヒト自己活性化NK細胞によるがん免疫細胞療法」と、毎日起こる遺伝子損傷を内側から修復しながら、できてしまったがん細胞を外側から攻撃する「遺伝子治療」、先端医療でがん予防を図る「がん先端医療」を組み合わせ、一歩進んだがん対策です。



# ヒト自己活性化NK (ナチュラル・キラー)細胞による

ナチュラルハーモニークリニック表参道が取得している再生医療 再生医療第三種：(計画番号)PC3160198

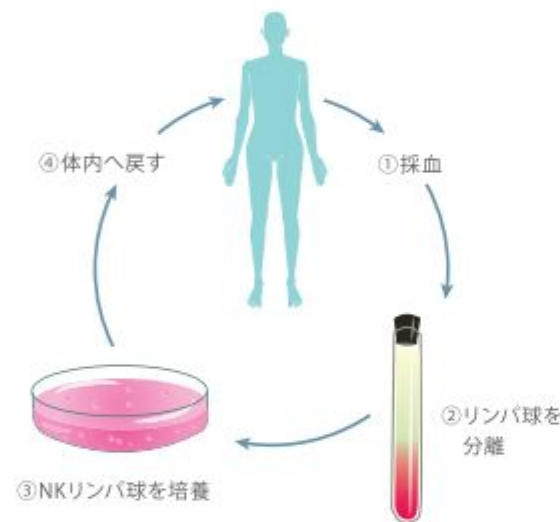
私たちは生まれながら免疫力をもっています。この免疫を担当する細胞を採血によって取り出し、数と質を高めて体内に戻す、NK (ナチュラル・キラー)細胞を使った療法です。免疫力が高まることで、がん発生リスクを抑えることが期待できます。

## がん予防の新しい健康法

### ご自身のNK細胞を活性化・増殖させて体内に戻す

NK細胞は、免疫システムの最前線で働くリンパ球の一種です。全身をくまなく点検し、がん細胞やウイルス感染細胞を見つけ出して攻撃します。加齢はもちろん、食事や睡眠、ストレスなどの影響も受けやすいことで知られています。

「ヒト自己活性化NK細胞によるがん免疫細胞療法」は、治療を受ける人の血液から採取したNKリンパ球を3週間培養し、数を1,000倍程度に増やしてから点滴で体内に戻す療法です。免疫力を高めることが期待でき、自分の細胞を使うため身体への負担が少ない治療法としても注目されています。



### いち早くがん細胞を攻撃・殺傷するNK (ナチュラル・キラー)細胞

体内に侵入した病原体などをいち早く発見し、最初に攻撃をしかけるNK細胞は、複雑で高度な働きをすることがわかっています。常に自由に体内を巡回し、さまざまながん細胞やウイルス感染細胞を見つけて攻撃しますが、正常な細胞や「異物」である胎児などは、攻撃しないシステムが働いています。

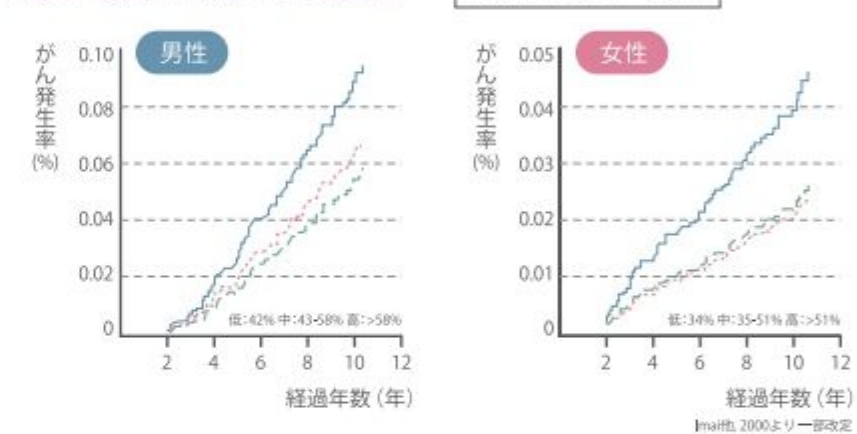


# がん免疫細胞療法 (再生医療第3種)

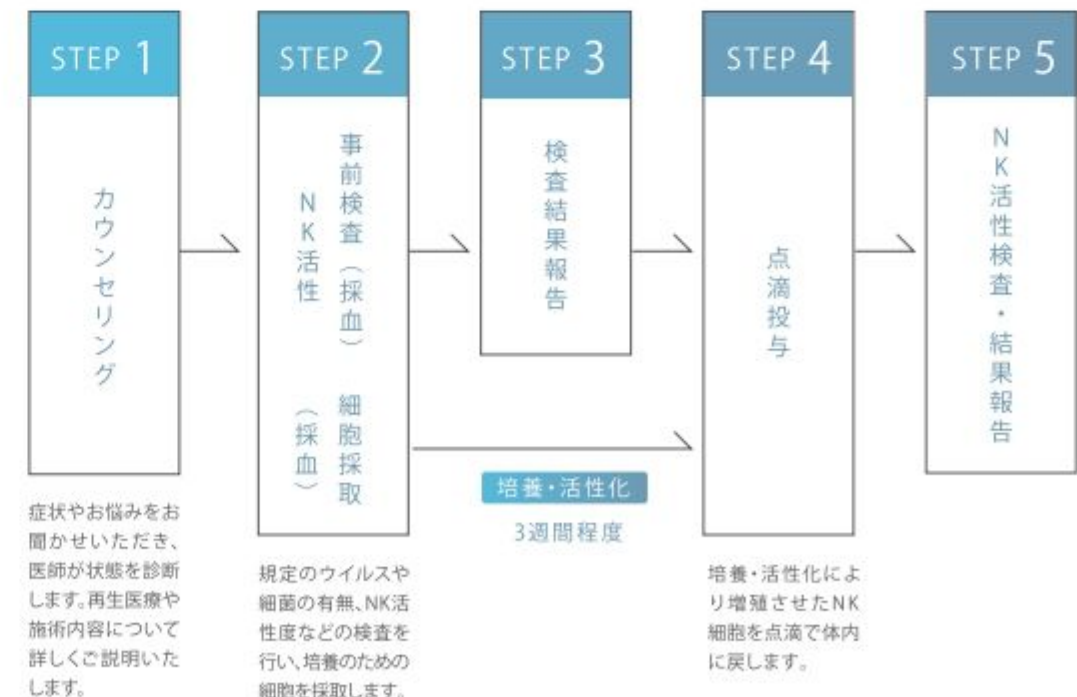
## 免疫力が低いと、がんの発生率は高くなる

埼玉県がんセンターでは、世界ではじめて免疫力の個人差と発がんリスクの関係を実証。NK細胞の活性度 (NK活性=4時間以内にNK細胞ががん細胞を破壊する能力のこと) を高い・中程度・低い3グループに分けて11年間追跡調査しました。その結果、NK活性の低いグループの人は、他のグループの人に比べてがん発生率が1.7倍に。つまりNK細胞が活性化された元気な状態であれば、風邪やインフルエンザにかかりにくくなるだけでなく、がんや感染症のリスクも軽減できると考えられます。

経過年数でみるがんの発生率



## 治療の流れ





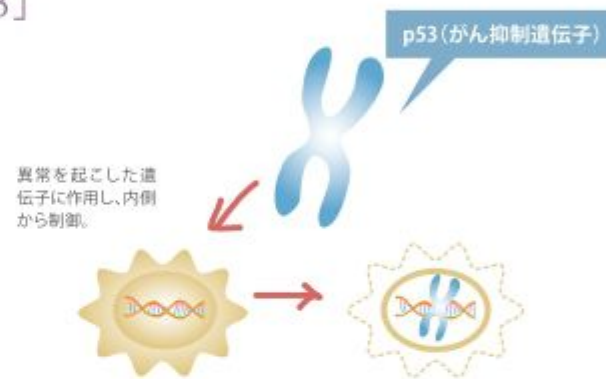
# 遺伝子治療

細胞ががん化する前と直後に、有効な遺伝子と因子を投与し、腫瘍化にストップをかける治療です。がん細胞の遺伝子損傷を修復し、アポトーシス(自死)に導きます。抗がん剤とは異なり、もともと身体の中にある遺伝子を投入する治療で、がんの種類も問いません。

## 細胞のがん化を抑制する遺伝子を使用

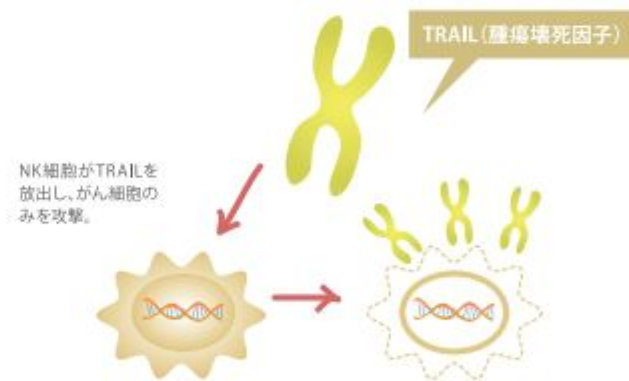
### がん細胞を内側から制御する「p53」

「p53(がん抑制遺伝子)」は“ゲノムの守護者”とも呼ばれている、がんを防ぐためにさまざまな遺伝子に命令を出す司令塔。遺伝子の損傷などの信号を察知すると活性化し、がん細胞になるのを防ぎます。同時に、アポトーシスを促してがん細胞の増殖を防ぎます。



### がん細胞を外側から直接攻撃する「TRAIL(トレイル)」

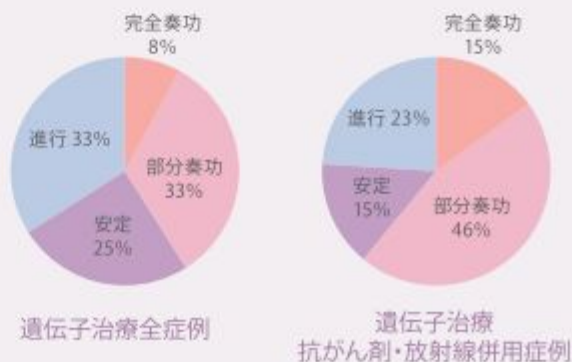
「TRAIL(腫瘍壊死因子)」は免疫システムのサイトカイン伝達物質です。がん細胞のみに対して選択的に攻撃できるといわれています。損傷した遺伝子をもつ細胞に炎症を引き起こして発がんを抑制したり、アポトーシス(自死)のプロセスを促進します。



### ステージⅣのがんでの治療成績\*

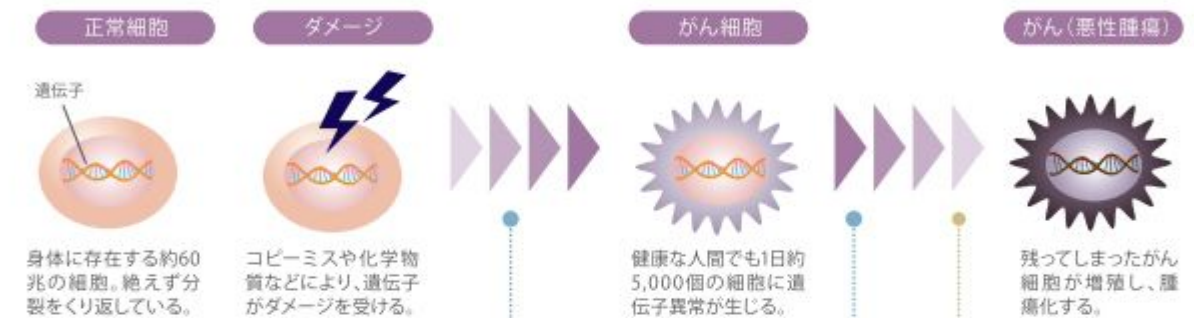
ステージⅣのがん治療に、遺伝子治療を行った実績が、右のグラフです。治療開始～3ヶ月から6ヶ月の結果で、治療後の切除術併用も含みます。

\*他医療機関の治療実績による  
株式会社先進バイオ医薬研究所「がん遺伝子治療・予防」より引用



## がん細胞との闘い

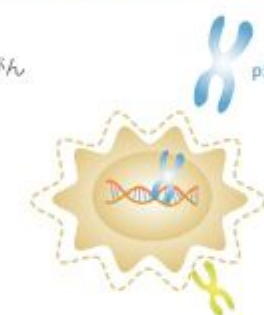
「p53」「TRAIL」をヒトの細胞膜の構成成分からつくられた「リポソーム(遺伝子カプセル)」に搭載します。約30分の点滴投与で、予防用の遺伝子が全身を巡り、がん細胞のあるところに集積します。



### p53(がん抑制遺伝子)の作用

#### ダメージの修復

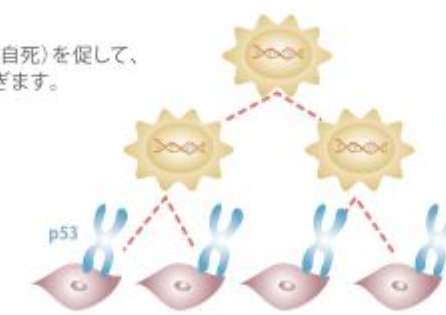
遺伝子のダメージを修復し、細胞ががん化するのを防ぎます。



### p53(がん抑制遺伝子)の作用

#### 増殖の抑制

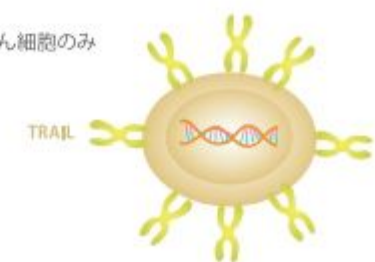
細胞のアポトーシス(自死)を促して、がん細胞の増殖を防ぎます。



### TRAIL(腫瘍壊死因子)の作用

#### 直接攻撃

NK細胞がTRAILを放出し、がん細胞のみアポトーシスへ誘導します。



がん遺伝子検査の結果によっては、上記の「p53」「TRAIL」にプラスして、他の遺伝子を投与します。



## がん先端医療

がんを未然に防ぐ治療は、ほかにも選択肢があります。通常のがん治療と並行して行う「がん先端医療」もその中のひとつです。「がん先端医療」とは、近代西洋医学と補完しあう代替療法や先進医療などを指します。当クリニックではがんの予防のために、予防治療からオーソドックスな代替療法まで行います。

### レーザー光感作療法 (マルチレーザーデリバリーシステム)

#### がん細胞だけにレーザー光をあて、死滅させる新しい治療法

がん細胞に取り込まれやすい、光に反応する光感作性物質を点滴などで体内に入れます。血管に0.5mmのプラスチックファイバーを通し、その光感作性物質が反応する波長のレーザー光を送り、がん細胞を過酸化状態にして死滅させる治療法です。ドイツ政府とEUの支援によって確立し、各国で認証<sup>®</sup>されています。



※ヨーロッパ:CEマーキング、カナダ:カナダFDA、アメリカ:US-FDA(※外部レーザー治療として)、オーストラリア:TGA(※外部レーザー治療として)、台湾:台湾FDA

### 高分子抗がん剤

#### 全身に転移するがんをターゲットにできる抗がん剤

抗がん剤「ビラルピシン」にポリマーをつけたP-THPを使用した治療です。正常な血管からは漏れ出さず、全身にあるがん細胞周辺の新生血管の隙間から飛び出し、がん細胞に集積(EPR効果)。がん細胞をピンポイントで攻撃できます。正常な細胞にダメージを与えないため、副作用が非常に少なくQOLを落としません。



### 代替療法

#### 他の治療を補いながら、効果の向上を図る療法

##### 高濃度ビタミンC点滴療法

高濃度ビタミンC点滴療法は、脾臓がんや大腸がんなどの化学療法製剤としてビタミンCを使用すると同時に、免疫機能の向上も図る治療法です。

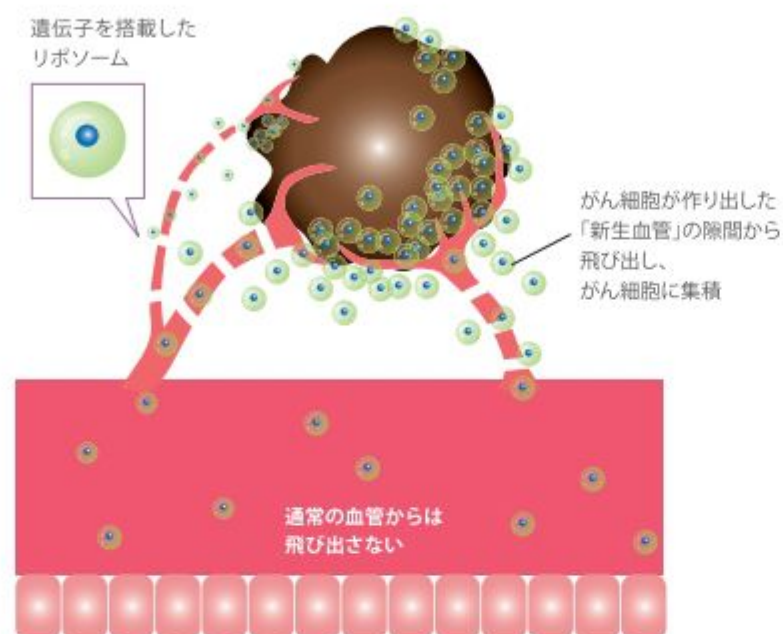
##### サプリメント療法

がんの発生や再発を防ぐ目的で、抗酸化性物質や免疫賦活作用があると考えられているサプリメントを活用し、体力や免疫機能の向上を図ります。

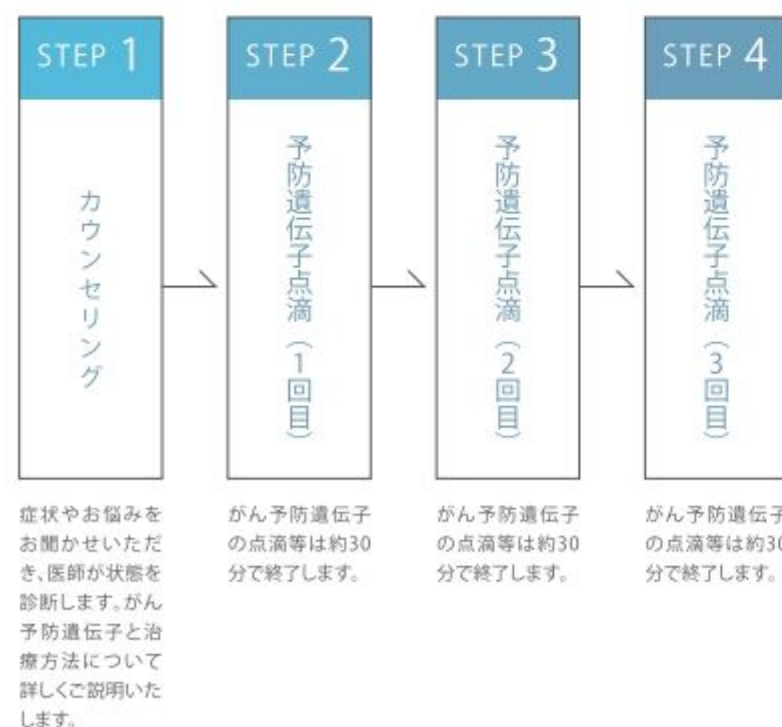
## 予防遺伝子の集積メカニズム (EPR効果<sup>®</sup>)

※Enhanced Permeation and Retention Effect

「p53」と「TRAIL」を搭載した、ヒトの細胞膜の構成成分からつくられたリポソーム(遺伝子カプセル)は、平均粒径約30nm(ナノメートル)です。正常血管の隙間は非常に小さく、この大きさのリポソームは通過することができません。一方、腫瘍組織の血管は腫瘍の増殖に伴う血管新生によって形成されるため分岐が多く、血管壁が正常血管よりも粗造で、100~200nm程度の隙間が空いています。点滴で投与されたリポソームは、正常血管からは飛び出さず、腫瘍組織の新生血管からのみ飛び出すことができます。そのため、的確に腫瘍細胞に集中送達・蓄積することが可能で、正常組織には影響を及ぼしません。



## 治療の流れ





## Frequently Asked Questions

### よくあるご質問

がん予防の検査や療法についてよくいただくご質問をまとめました。ここにご紹介している内容以外のご質問やご相談は当クリニックまでお問い合わせください。

### 〈がん腫瘍化前検査編〉

Q1

自分が「がん体質」かどうか分かりますか？

A1

がん腫瘍化前検査では、すでにごがんがあるかどうかを判別します。がん細胞は、健康な人間の身体でも、1日に約5,000個発生し、そのつど免疫細胞によって攻撃が行われ、死滅します。がんになりやすい体質かどうかを判別するものではありません。

A2

おおむね半年に1回の検査をおすすめしています。がんには進行が早いタイプのものであり、たとえ1年に1回検査を受けていたとしても、進行がんが見つかるケースも起こります。早期発見で得られるメリットは大きいので、半年に1回のサイクルがベストだと考えます。

Q2

検査の頻度はどのくらいが適当ですか？

A3

がん腫瘍化前検査をおすすめします。当クリニックのがん腫瘍化前検査は、重篤な副作用の報告がない治療を採用しています。

Q3

陽性の反応が出た場合は？

Q4

効果はどれくらいであらわれますか？

A4

がん腫瘍化前治療は、細胞が腫瘍化する原因である遺伝子異常を消滅させることを目指した治療です。遺伝子治療は効果が現れるまで2~3週間と早いのが特長です。ヒト自己活性化NK細胞によるがん免疫細胞療法は、効果があらわれるまで1~2ヶ月かかることがあります。

A5

治療後の微熱や悪寒などの副作用が、ごくまれに発生することが報告されています。当クリニックのがん腫瘍化前治療は、重篤な副作用がなく、高い効果が期待される治療法を厳選しています。

Q5

副作用はありますか？

A6

「NHC 式がん予防」は、予防措置として将来病気にかかる可能性を下げるために行う療法です。NK細胞を使った免疫療法は、がんに罹患してからしか受けられないクリニックが多いのですが、当クリニックは病気になる前から受けられる数少ないクリニックのひとつです。がんに罹患している方には、「NHC式 がん治療」のご案内をいたします。また、提携医療機関のご紹介もいたします。

Q6

すでにごがんに罹患している人も受けられますか？

A7

入院の必要はありません。短時間の外来点滴のみで治療可能ですので、日帰り治療を行っています。遠方からお越しになる方は、お手数ですが近隣のホテルなどに宿泊の上、ご来院ください。

Q7

治療期間中の入院は必要ですか？



より積極的な健康増進に

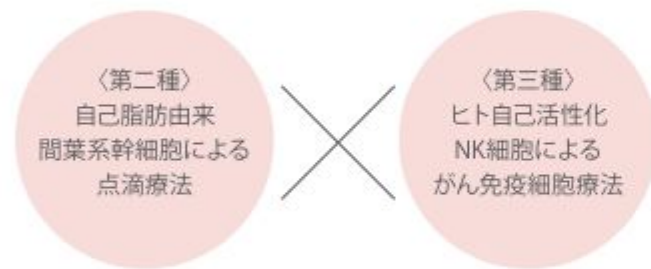
# NHC式 再生医療のご案内

私たちは、より安全で自然な効果が望める次世代の医療「再生医療」に取り組んでいます。「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」を遵守し、厚生労働省に再生医療第二種と再生医療第三種の提供計画が受理されています。

## がん予防のための健康のベースづくり

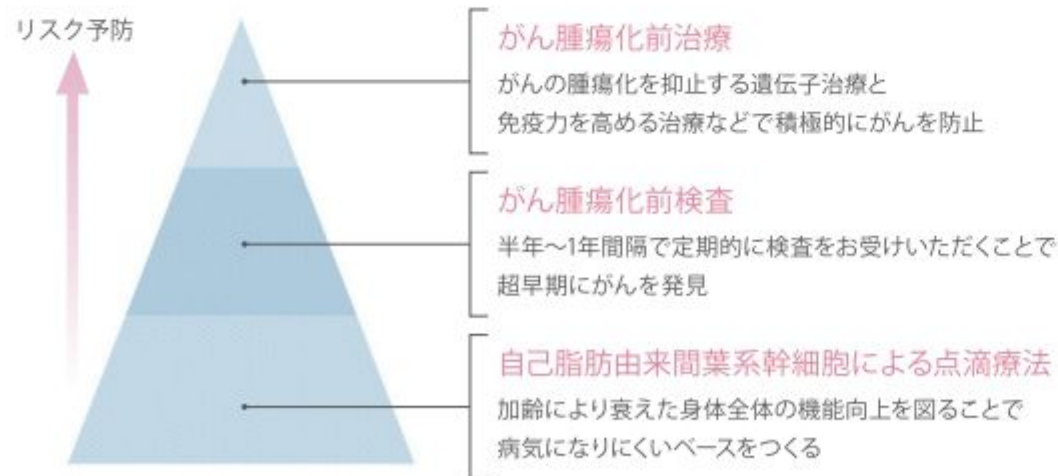
当クリニックでは、更年期障害をはじめとするエイジングによる身体の不調を改善するための再生医療「自己脂肪由来間葉系幹細胞による点滴療法」を行っています。加齢により衰えた組織の修復・再生、病気、ケガにより失われた機能回復を目指すものです。がん予防と組み合わせることによって、よりトータルに身体の機能向上をサポートします。

◎当クリニックで提供する再生医療



## 健康獲得のための総合的な治療

身体のエイジングケアを行う再生医療と、がん罹患リスクを知るための検査、がんの腫瘍化リスクを未然に防ぐ治療をワンストップでご提供しています。

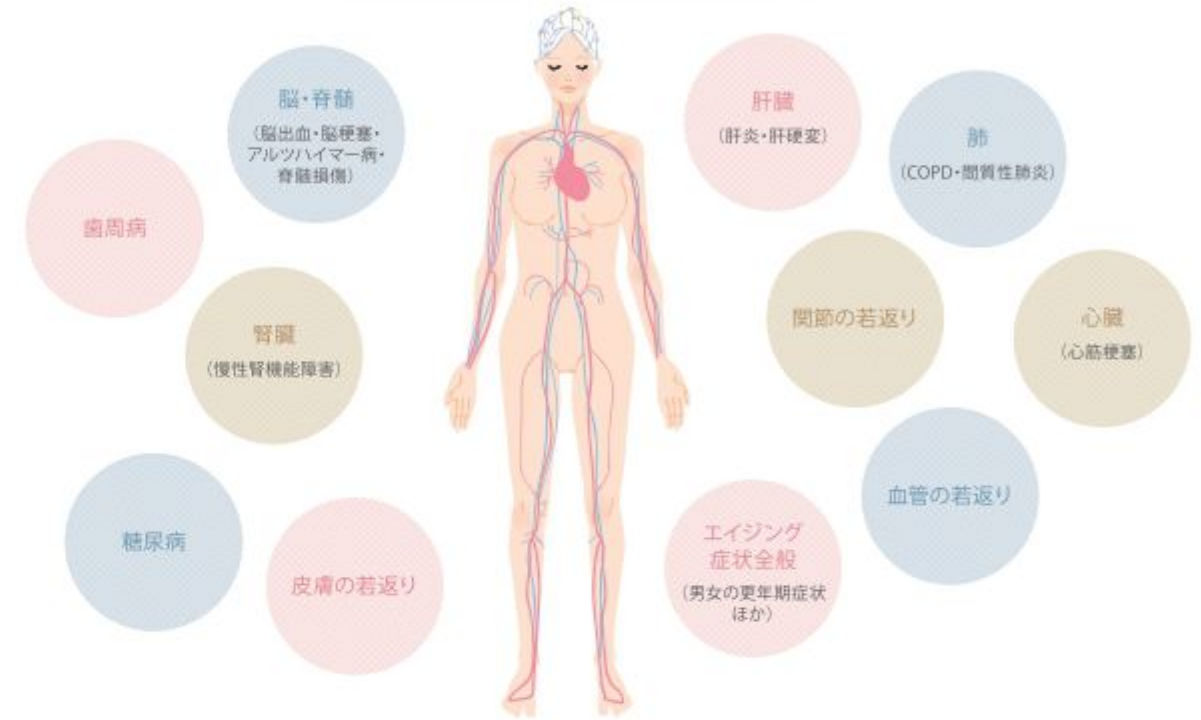


## 自己脂肪由来間葉系幹細胞による点滴療法(再生医療第2種)

ナチュラルハーモニークリニック表参道が取得している再生医療 再生医療第二種：(計画番号)PB3160029

骨髄や脂肪組織などの中に存在する間葉系幹細胞は、新しい細胞を増やす「種」になることのできる細胞です。ご自身の脂肪から取り出した幹細胞を増殖培養し、ふたたび体内に戻して身体全体の若返りを目指します。

## 臨床応用の可能性と期待される効果



## 治療の流れ

